

# 岩手県新広域道路交通ビジョン・計画（概要）

---

岩手県  
令和3年6月

# 新広域道路交通ビジョンと新広域道路交通計画の内容〔国土交通省通知概要〕

## 新広域道路交通ビジョン

地域の将来像を踏まえた広域的な道路交通の今後の方向性を定めるものであり、概ね20～30年間の中長期的な視点で検討を行うもの。

### 1 地域の将来像

地域の社会・経済の現状や見通しを踏まえた目指すべき姿について整理。

### 2 広域的な交通の課題と取組

- ・ 地域における鉄道、海上、航空を含めた広域的な交通の課題や取組について、平常時・災害時及び物流・人流の観点から総合的に整理。
- ・ ICTや自動運転等の技術革新を踏まえた新たな取組についても整理。

### 3 広域的な道路交通の基本方針

以下の3つの基本方針を整理。

#### (1) 広域道路ネットワーク

高規格幹線道路を補完する広域道路ネットワークを中心に、

- ・ 地域や拠点間の連絡の方向性  
(必要な計画路線、路線再編を含む)
- ・ 災害時のネットワークの代替機能強化の方向性 等

#### (2) 交通・防災拠点

- ・ 地域の主要な交通拠点に関する道路と各交通機関の連携強化の方向性
- ・ 主要な防災拠点の機能強化等の方向性 等

#### (3) ICT交通マネジメント

- ・ ICT等を活用した道路の情報収集や活用の方向性
- ・ 他の交通とのデータ連携などサービス向上の方向性 等

## 新広域道路交通計画

新広域道路交通ビジョンを踏まえ、総合交通体系の基盤となるネットワーク等を定めるもの。

以下の3つの計画で構成。

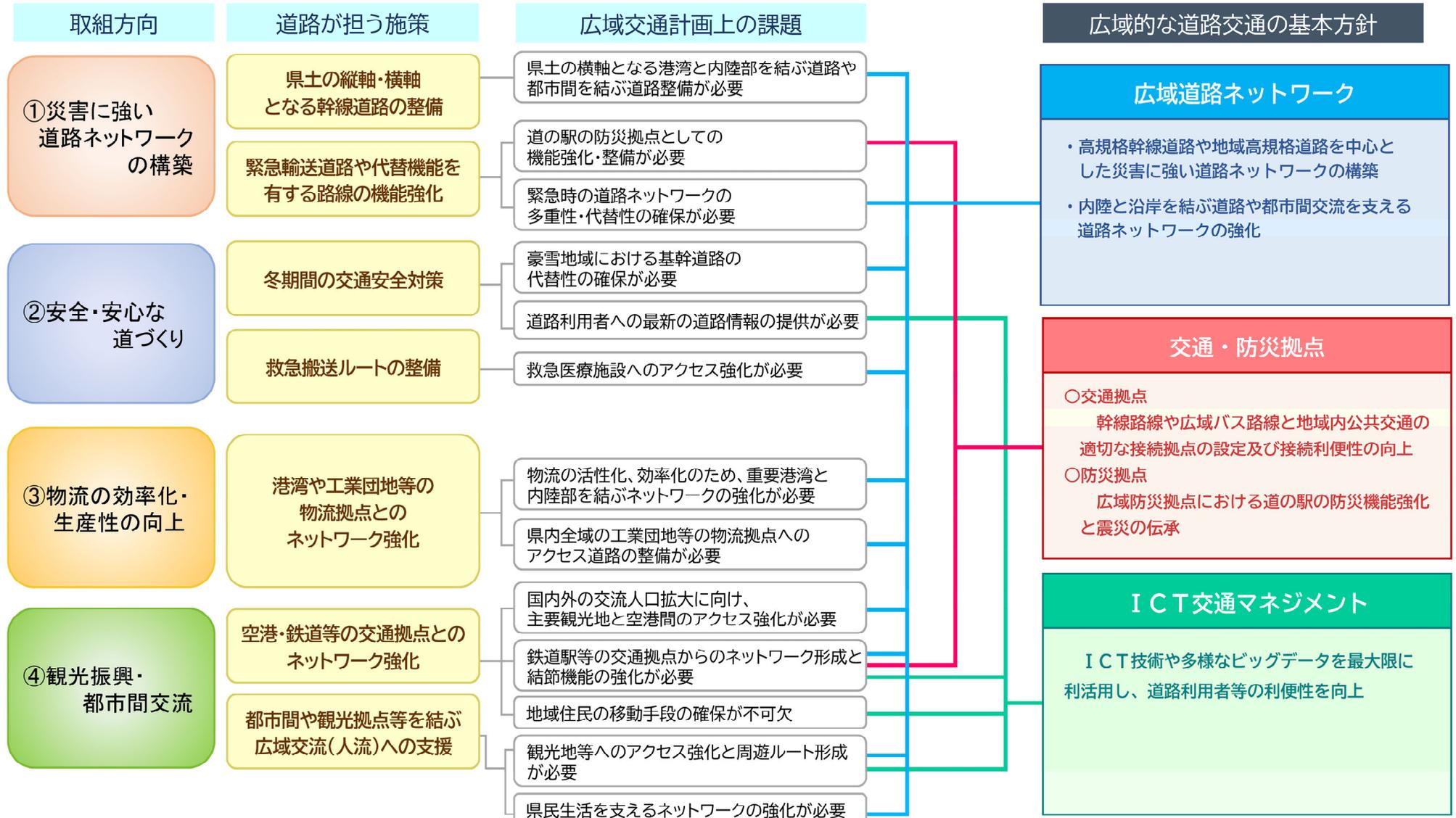
広域道路ネットワーク計画

交通・防災拠点計画

ICT交通マネジメント計画

# 岩手県の広域的な道路交通の課題と基本方針

- ・ 「いわて県民計画(2019～2028)」の社会基盤分野の政策項目を踏まえ、4つの「道路の取組方向」と付随する7つの「道路が担うべき施策」を整理し、広域交通計画上の課題を把握した。
- ・ この広域交通計画上の課題を踏まえ、3つの「広域的な道路交通の基本方針」を設定する。



▲将来像実現のための広域的な道路交通の基本方針（体系図）



# 交通・防災拠点

## ■ 交通拠点 基本方針（岩手県地域公共交通網形成計画(H31.3)抜粋）

### ○ 幹線路線※1や広域バス路線※2と地域内公共交通の適切な接続拠点の設定及び接続利便性の向上

鉄道駅やバスターミナルなどの適切な接続拠点の設定や、住民ニーズに応じたダイヤ調整、待ち受け環境整備による接続改善など、接続機能を強化し、乗り換えの円滑化を図る。

※1 幹線路線：広域振興圏をまたいで広大な県土の移動を支える鉄道やバス路線  
 ※2 広域バス路線：広域振興圏内において複数市町村を運行するバス路線  
 （平成13年（2001年）3月31日の市町村の状態で判断する）

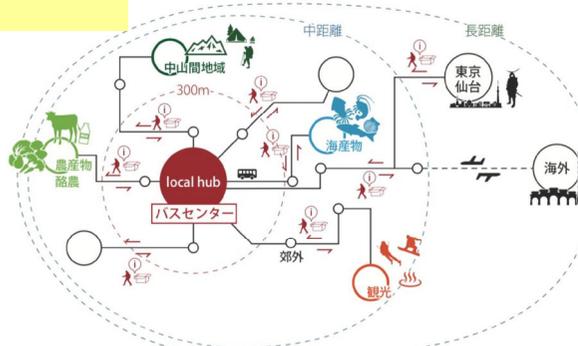
## ■ 主な取組内容

4広域振興圏	交通拠点に関わる方向性
<b>県央 広域振興圏</b>	盛岡駅、盛岡バスセンターを広域接続拠点として各圏域への移動が可能な「接続機能」を強化。
<b>県南 広域振興圏</b>	鉄道駅などを広域接続拠点とするとともに、日常生活に直結する病院・学校等を経由し、まちづくりとの連携を図る。
<b>沿岸 広域振興圏</b>	駅のほか、復興まちづくり事業で整備された新たなまちの拠点・道の駅等も含めた広域接続拠点化を図り、まちづくりとの連携を図る。
<b>県北 広域振興圏</b>	駅・病院・学校等、日常生活に直結する施設を重要な拠点として位置付け、まちづくりとの連携を図る。

出典：岩手県地域公共交通網形成計画（H31.3）

### 《取組》接続拠点における乗り継ぎ環境整備（盛岡バスセンター）

令和3年度内の開業を予定している盛岡バスセンターは、「ローカルハブ」というコンセプトのもと、バス路線で地域をつないできた歴史や結びつきを生かし、人々だけでなく地域の魅力もつなぐ拠点として整備し、中心市街地活性化及び河南地区のにぎわい創出を図る。



出典：盛岡バスセンター整備事業計画書（令和2年6月）

## ■ 防災拠点 基本方針

### ○ 広域防災拠点における道の駅の防災機能強化と震災の伝承

- 岩手県地域防災計画において広域防災拠点に位置付けられている道の駅について、防災機能、体制を一層強化。
- 三陸沿岸のゲートウェイとして震災津波伝承施設と一体となっている道の駅「高田松原」等の沿岸部の道の駅は、東日本大震災津波の事実と教訓を語り継ぎ、未来へ伝承する施設として、復興に向けて力強く歩んでいく姿を発信。

▼表 県の広域防災拠点

拠点エリア	広域防災拠点・施設			
広域支援拠点	盛岡 花巻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手産業文化センター・アピオ</li> <li>・岩手県職員総合ゲラウンド</li> <li>・岩手県立大学</li> <li>・滝沢総合公園</li> <li>・岩手大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡市アピオ</li> <li>・雫石総合運動公園</li> <li>・岩手県消防学校</li> <li>・岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花巻空港</li> <li>・花巻市交流会館</li> <li>・日居城野運動公園</li> </ul>
	後方支援拠点	二戸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二戸地区空中消火等補給基地</li> <li>・大平球場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二戸市民文化会館</li> <li>・堀野近隣公園</li> </ul>
葛巻		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーンフェーズ</li> <li>・葛巻町総合運動公園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛巻小学校</li> <li>・くずまき交流館プラザ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅「くずまき高原」</li> </ul>
遠野 北上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅「遠野風の丘」</li> <li>・北上総合公園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠野運動公園</li> <li>・森山総合公園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠野市総合防災センター</li> <li>・トヨタ自動車(株)岩手工場</li> </ul>

出典：岩手県地域防災計画（令和3年3月）

## ■ 主な取組内容

### 【防災道の駅（候補）】

#### ◆道の駅「遠野風の丘」、道の駅「くずまき高原」

岩手県地域防災計画において広域防災拠点（後方支援拠点）に位置付けられている2箇所の道の駅について、防災拠点としての機能、体制を強化。



道の駅「遠野風の丘」  
 （東日本大震災時、自衛隊・消防隊等の後方支援拠点として機能）

### 【震災伝承】

#### ◆道の駅「高田松原」

三陸沿岸のゲートウェイとして震災津波伝承施設と一体となり情報を発信。



道の駅「高田松原」  
 （高田松原津波復興祈念公園）

# ICT交通マネジメント

## ■ 基本方針

○ ICT技術や多様なビッグデータを最大限に利活用し、道路利用者等の利便性を向上

- 1 ICT技術やビッグデータを最大限に利活用し、最新の道路情報の収集と提供を推進。
- 2 AI技術の導入・活用や自動運転導入に向けた実証実験などの取組を注視しつつ、次世代モビリティ社会の実現に向けた検討を進める。

## ■ 主な取組内容

分類	主な取組内容
データ利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ETC2.0のデータを活用した休憩サービスの拡充等（国土交通省）</li> </ul>
MaaS(※1)に繋がる新たな取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代型バスロケーションシステム導入</li> <li>ICカードの導入</li> <li>グリーンスローモビリティ(※2)の実証運行（陸前高田市）</li> </ul>

※1 MaaS (Mobility as a Service) : スマホアプリにより、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービス。

※2 グリーンスローモビリティ : 時速20km未満で公道を走ることが可能な4人乗り以上の電動パブリックモビリティであり、MaaSへの統合可能な交通サービス。

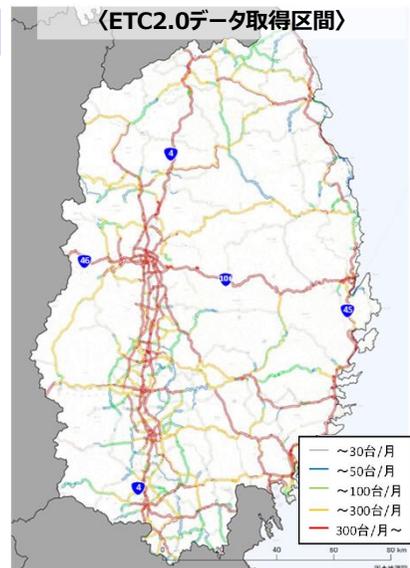
## 《データ利活用》ETC2.0のデータを活用した休憩サービスの拡充等

### 「道の駅」を活用した休憩サービスの拡充

高速道路から一時退出した場合でも、高速道路を降りずに利用した料金のままとする実験を道の駅「おりつめ」で実施中。（令和2年3月より退出可能時間を1時間から3時間に引き上げ）

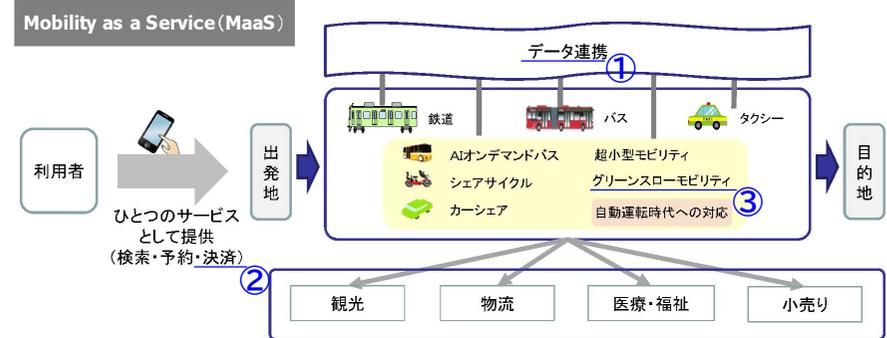


図「道の駅」を活用した休憩サービスの拡充イメージ



## 《MaaSに繋がる新たな取組》各種取組内容

地域住民や道路利用者等の利便性が向上し、公共交通の活性化に繋がるとともに、将来的にMaaSに繋がっていく可能性のある各種取組を推進。



### ①次世代型バスロケーションシステム導入

バスの現在位置や到着情報など利用者が求める情報を、スマートフォン等で時間や場所を選ばずに見ることが出来るサービスの導入を推進。



サービスイメージ（出典：岩手県交通株式会社HP）

### ②ICカードの導入

- 岩手県交通株式会社  
2021年3月より一部路線にICカードを導入
- 岩手県北自動車株式会社  
2022年春までに県内全路線にICカード導入予定



カードデザイン（出典：岩手県交通株式会社HP）

### ③グリーンスローモビリティの実証運行(陸前高田市)

陸前高田市では、人口減少や少子高齢化により、交流の場への移動や日常不可欠な移動（買い物、通院、通学）等、地域コミュニティの形成における課題解決が求められていることから、誰もが住みやすいまちを目指し、人に優しく魅力ある交通・移動システムの一つである「グリーンスローモビリティ」の活用に向け、本格導入に向けた実証実験を実施。



資料提供：陸前高田市